

がん幹細胞特異因子を標的とした難治性癌の治療法 開発検討



■ 期待される成果

難治性であるトリプルネガティブ乳がん、膵がんにおける有望な標的分子(がん幹細胞特異因子)に対する核酸医薬による治療法の確立を最終目的としており、本核酸医薬の非臨床試験の実施、GMPグレードでの製剤の製造、医師主導治験の基盤の樹立が期待される。

■ 想定される実用化の時期 2024年頃 (薬事承認取得)

■ プロジェクトリーダー

株式会社RNAi 代表取締役 山田 智之

■ 実施機関

株式会社RNAi
国立大学法人東京大学医科学研究所

■ 実施期間

平成26年7月～平成28年10月

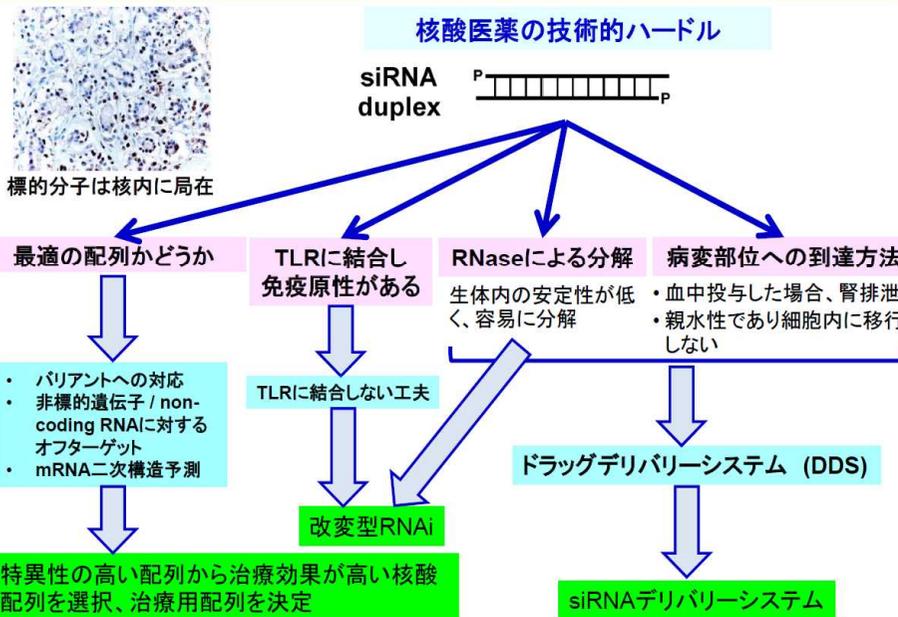
■ シーズの内容

・siRNA配列設計技術 ・改変型RNAi ・静注核酸用ドラッグデリバリーシステム ・がん幹細胞性規定因子

■ 研究開発のポイント

核酸医薬のハードルと学際的アプローチ - 理学・工学・医学

標的分子は核内転写因子である → 核酸医薬の開発へ



核酸治療モデル (i.v.) - 同所移植モデル

